



# 平成19年度第2回 川崎区区民会議

## 資 料

資料1	第1期川崎区区民会議 これまでの取り組み成果	1
資料2	地域防災部会 課題解決に向けた取り組み(案)	6
資料3	シニアパワー部会 課題解決に向けた取り組み(案)	9
資料4	区民会議集会について(企画案)	12
資料5	川崎区協働推進事業について	13

## 第1期

# 川崎区区民会議

## ～これまでの取り組み成果～

平成19年10月16日(火)  
平成19年度第2回川崎区区民会議

 2007 Kawasaki Ward

1

## イメージアップの取り組み

### ・まちを花で飾る

<たちばな通りと平和通り、川崎球場に草花を飾りました>

### ・路上喫煙禁止、自転車放置禁止ステッカーの張り付け

<川崎駅周辺の街路灯にステッカーを張り付けました>

### ・オープンカフェ稲毛公園の開催

<稲毛公園でイベントを開催しました>

### ・放置自転車、看板の道路不法占用パトロールの実施

<川崎駅周辺の放置自転車や道路不法占用の改善を指導しました>

### ・川崎駅・川崎球場間の道路清掃の実施

<川崎駅・川崎球場間の道路を集中的に清掃しました>

取り組み主体:  区民  行政と区民の協働

 2007 Kawasaki Ward

3

## 平成18年度審議テーマ

### 1 区のイメージアップ

第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会に向けて区民の力を結集しイメージアップに取り組む

### 2 次世代を担う子どもの安全・安心を中心とした地域子育て支援

 2007 Kawasaki Ward

2

## まちを花で飾る(商店街編)

実施主体:海風の森をMAZUつくる会、たちばな通り商店街、平和通り商店街



たちばな通りと平和通りに葉ケイトウを植えたプランターを150基飾りました

 2007 Kawasaki Ward

4

## まちを花で飾る(川崎球場編)

実施主体:川中島中学校区地域教育会議



川中島中学校美術部が  
メッセージボードを作りました



川崎球場入り口にサルビアを飾りました



## オープンカフェ稲毛公園の開催

実施主体:2007アメリカンフットボールワールド  
カップ大会協賛イベント実行委員会



7月7日(土)、8日(日)稲毛公園で  
「オープンカフェ稲毛公園」を開催しました

ステージパフォーマンスなども実施しました

## 路上喫煙禁止、自転車放置禁止 ステッカーの張り付け

実施主体:中央まちづくりクラブ、東海道川崎宿2023



川崎駅周辺の街路灯に張り付けました



路上喫煙禁止、自転車放置禁止ステッカー

## 放置自転車、 看板の道路不法占用パトロール

実施主体:各商店街組合の代表者、  
川崎区役所、川崎警察署



川崎駅東口をパトロールしました

放置自転車や看板の道路不法占用などの  
改善を指導しました

## 川崎・川崎球場間の道路清掃の実施

実施主体：町内会・自治会、各商店街、  
川崎水曜パトロールの会、川崎区役所



大量のゴミを撤去しました



道路の隅々まで清掃しました

## 子どもの安全・安心の取り組み

- ・地域見守り看板の設置    
<子どもの見守りを呼びかける看板を区内に掲出しました>
- ・こども安全の日を設定   
<毎月1日と10日をこども安全の日を設定しました>
- ・青色回転灯装着車パトロールの実施   
<青色回転灯を装着した車両で区内をパトロールしました>

## 平成18年度審議テーマ

### 1 区のイメージアップ

第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会に向けて区民の力を結集しイメージアップに取り組む

### 2 次世代を担う子どもの安全・安心を中心とした地域子育て支援

## 地域見守り看板の設置

実施主体：区こども総合支援ネットワーク会議、  
区安全・安心まちづくり推進協議会



小学校や町内会館などに掲出しました



地域見守り看板

## こども安全の日を設定

実施主体：区安全・安心まちづくり推進協議会



毎月1日と10日をこども安全の日を設定して  
登下校時間帯などに見守りをしています

## 取り組みの継続を

### 1 イメージアップ

まちの美化、観光案内などを  
充実させて区の魅力向上を進める

### 2 子どもの安全・安心

ながら見守り活動など子どもの安全・安心  
の取り組みを継続し、子育て環境の  
向上を進める

## 青色回転灯装着車パトロール

実施主体：区安全・安心まちづくり推進協議会



青色回転灯を装着した車両でパトロール

ご静聴ありがとうございました。

# - 安全・安心まちづくりの推進 -

## “ 地域の自主防犯活動の推進と 区内の防犯活動状況 ”

【 報告 1 】 「川崎区子ども安全の日」の区内の活動状況

### 【活動概要】

平成 19 年 7 月 10 日から毎月 1 日、10 日（ただし土日祝日を除く）に「川崎区子ども安全の日」を制定し、地域や「川崎区安全・安心まちづくり推進協議会」による小学校周辺の登下校の見守り活動を推進しています。地域の町内会・自治会、市民団体などの市民ボランティアに呼びかけ、参加できる方といっしょに小学校の通学路等で児童の見守り活動を実施しているほか、併せて区役所公用車や市民団体による青色回転灯を装備した車両で地域を巡回しています。

### 【活動状況】

- 平成 19 年 7 月 10 日（火） **川崎小学校** 14 時 30 分～15 時 30 分 20 名  
参加者 元木 1・2 丁目、日進町、下並木、小川町、池田、サンスクエア川崎、  
の各町内会・自治会、川崎小 PTA、川崎警察署、協議会事務局  
（青色回転灯装備の区役所公用車で通学路一帯を巡回）
- 京町小学校** 14 時 30 分～15 時 30 分 15 名  
参加者 渡田山王町、池田、セゾール川崎京町ハイライズ、京町、京町小 PTA、  
川崎警察署、協議会事務局  
（青色回転灯装備の区役所公用車で通学路一帯を巡回）
- 平成 19 年 8 月 1 日（水） 夏休み中のため、富士見公園一帯を青色回転灯を装備した区役所公用車で巡回
- 平成 19 年 8 月 10 日（金） 夏休み中のため、大師公園一帯を青色回転灯を装備した区役所公用車で巡回
- 平成 19 年 9 月 1 日（土） 小学校休日のためお休み
- 平成 19 年 9 月 10 日（月） **宮前小学校** 13 時 30 分～15 時 45 分 16 名  
参加者 宮前町、新川通、砂子 1 丁目、砂子 2 丁目、東田町、堀之内町、  
境町の各町内会・自治会、川崎防犯指導員協議会、川崎警察署、  
協議会事務局  
（青色回転灯装備の区役所公用車で通学路一帯を巡回）

【 報告 2 】 「自主防犯活動」の推進状況

現在、川崎区内で 3 団体で 4 台の青色回転灯装備車両による自主防犯活動が行われています。

渡田地区町内会連合会 2 台（うち渡田 1 丁目町内会で 1 台）  
渡田 2 丁目町内会 1 台 渡田新町 1・2 丁目町内会 1 台

また、現在 渡田向町内会が申請手続き中です。

平成 19 年 10 月 1 日（月） **旭町小学校** 13 時～15 時 30 分 22 名  
参加者 旭港、旭町 1 丁目の各町内会・自治会、旭町小 PTA、  
川崎防犯指導員協議会、川崎少年補導員連絡会、  
協議会事務局  
（青色回転灯装備の区役所公用車で通学路一帯を巡回）



**新町小学校** 13 時～15 時 30 分 23 名  
参加者 渡田山王町、渡田新町 1・2 丁目、小田栄、  
川崎少年補導員連絡会、民生委員児童委員協議会、  
協議会事務局  
（青色回転灯装備の区役所公用車で通学路一帯を巡回）



**田島小学校** 13 時～15 時 30 分 16 名  
参加者 渡田 1 丁目、渡田 2 丁目、渡田 3・4 丁目、  
渡田東町、渡田向町、大島上町の各町内会・自治会、  
民生委員児童委員協議会、協議会事務局  
（青色回転灯装備の区役所公用車で通学路一帯を巡回）

平成 19 年 10 月 10 日（水） 秋休み中のため、区内を青色回転灯を装備した区役所公用車で巡回

“川崎区子ども安全の日” 3 月 10 日（月） 藤崎小、川中島小  
青色回転灯による見守り普及活動今後の予定 4 月 1 日（火） 小田公園一帯  
[ 重点区域 ] 4 月 10 日（木） 四谷小  
～平成 19 年～ 5 月 1 日（木） 大師小、東門前小  
11 月 1 日（木） 小田小、東小田小、浅田小 6 月 10 日（火） 殿町小  
12 月 10 日（月） 渡田小、大島小  
～平成 20 年～ \*やむを得ない事情で中止にした場合は  
1 月 10 日（木） 向小、東大島小 他の日に振り替えて実施します。

# 地域防災部会 課題解決に向けた取り組み(案)

## 委員の意見

### 周知

区地域防災計画や自主防災組織の手引きなどは素晴らしい内容だが、あまり広報されていない。区民の10分の1の人でも知らせてもらえばよい。  
 区地域防災計画を地域の人に知らしめていくこと、町内会だけではなく地域の各団体と連携して知らせていくことが大切である。  
 町内会など地域に密着している人は防災意識が高いので、若い人や外国人などを対象に周知すればパニックにならないと思う。  
 大手スーパーのように、防災用品を自然に目に入るところに展示するのが効果的である。

### 備え

災害備蓄倉庫は中学校区くらいの範囲で設置しているが、小学校区くらいの範囲で設置した方がよい。小学校区くらいの範囲にすると道路が寸断されてもたどり着ける。  
 地震はもちろんだが、風水害に対しても備えておく必要がある。  
 避難された人の小さな傷や簡単な応急手当などの処置は必要なので、医薬品も備蓄した方がよい。  
 ボランティアの対応も考えておいた方がよい。自分たちだけでは無理なこともあるということも認識しておくべき。  
 食べ物も大事だが、身の安全の確保が重要である。地震が起きても火を出さないようにすることを徹底する必要がある。  
 あとで弁償することを前提に、自動販売機の飲料を災害時に利用できる協定を結べないか。

### 訓練

町内会ではある程度防災組織ができてきているので、マニュアルがあれば、あとは訓練次第である。訓練をしていないといざというときに実践できない。  
 いろいろな訓練をすると自信がつき、身につくようになる。例えば、消火訓練をしたら火災が起きたときに落ち着いて対応ができる。  
 外国人の中には言葉がわからない人もいるので、実際に何か起きたときに戸惑うこともあると思う。普段からの訓練や教育が必要だ。  
 小学校で運動会を開催するときに防災訓練を織り交せて実施したら、運動会を見に来た家族も参加できるのでよい。  
 子どもは地域の小学校に通うのだから、小学校単位のイベントを考えたらどうか。

### 担い手

町内会の人の年齢が高くなっていたり、昼間は地域に大人がいなかったりするため、体力がある中学生を活用するなど、幅広い見直しが必要である。  
 主婦は昼間パートで働いていても地域にいる人が多いので、そういう人たちの力をもっと活用できればよい。  
 最近、地域と関わりがない人が増えてきているが、その人たちも一緒に取り組まないと地域課題の解決につながらない。地域の課題を把握していても、誰がどのように取り組むのが決まらないと解決に至らない。  
 P.T.Aの役員も成り手がいない状況であり、どうすれば協力が得られるのか模索しているところである。地域の活動の参加者はいつも同じ人ばかりというのが実情である。

### 自助・共助・公助

災害に対しては自分で自分の身を守るのが一番大切であり、余裕があればほかの人を助けるべき。  
 災害が起きたとき3日間くらいは応援が来ない前提で、自分の力で生き延びる方法を考えおかなければならない。  
 災害があったときのために、どこにどのような人がいるのか把握しておかなければならないが、個人情報の問題もある。  
 民生委員も町内会の全ての人を見られるわけではないので、隣近所が担うべきである。  
 自分で自分の身を守るのが最初で、その後にはほかの人を助けに行く形になると思う。自助、共助、公助の順番でなければならない。  
 地域の防災力の向上と同時に、町内会への加入促進をして地域の力を高めていかないと、形だけの制度になってしまうおそれがある。

### 体制

町内会が高齢化しており、大規模マンションなどに子どもを持つ若い世代が増えているので、町内会だけではなく、ほかの区民の視点からも考えないと地域の防災はできない。  
 地域に新しくマンションができて、既存の町内会などの活動には新しいマンションの住民はなかなか参加できない。無理に参加させようとすれば地域が混乱するおそれがある。団塊の世代に町内会へ参加してもらおうといっても現状では難しいと思う。何か受け皿になるような組織をつくらなければならない。  
 既存の団体を壊してしまうと不都合もある。しかし、新しい人は既存の組織にいろいろな抵抗がある。これからの地域防災を考えるならば、今までの枠組みではなく、新しい枠組みづくりをしないといけない。  
 区内で大規模マンションの建設が増加しており、その住民に地域との関わりを持ってもらう1つの手段として防災訓練を実施することも考えられる。  
 学校と地域は連携していないとまよくいかないから、学校と町内会は一体になって取り組むべき。協議会のようなのをつくれれば、いろいろなが知らしめていけるのではないかと。  
 新しい大規模マンションの住民と既存の町内会の人たち、それから、学校、幼稚園や保育園まで含めて、それらの人たちの連携が地域防災の一歩の課題だと思う。  
 日頃からお祭りなどを通じて地域のコミュニケーションをとることが重要である。  
 災害時だけ協力し合うのは難しい。町内会の活動をもっとPRすべきである。

### 臨海部

臨海部の工場群で大規模災害が発生した場合、このような大きな工業地帯では、一般の人は対応の仕様が異なる。  
 地域で生活している住民は企業の安全管理が不安なので、特に川崎区の場合はよくチェックしなければならない。

## 具体的な取り組み

### まずは防災意識の向上を

- (区民) ・自分の避難所を確認する  
 ・職場や地域での防災訓練に積極的に参加する
- (行政) ・区地域防災計画を周知する  
 ・外国人や若者への啓発を行う

### 備えあれば憂いなし 訓練すれば混乱せず

- (区民) ・地震時にとっさに身の安全を守ることや火の始末を習慣づける  
 ・3日分の食料を確保する
- (協働) ・総合的な防災訓練を実施する

### 地域のみんで力を合わせて 生き延びる

- (区民) ・災害時に近所で助け合えるよう日頃のコミュニケーションを大切に
- (協働) ・災害時要援護者への支援を行う

### 地域の実情に応じた防災体制 をつくる

- (区民) ・地域内の各団体が連携する
- (協働) ・防災訓練をきっかけとして地域の連携を図る
- (行政) ・自主防災組織の設立を支援する  
 ・町内会の活動をPRする

地域  
コ  
ミ  
ュ  
ニ  
テ  
ィ  
の  
充  
実

## 地域防災部会における委員の意見(再掲) 1 / 2

### 周知

区地域防災計画や自主防災組織の手引きなどは素晴らしい内容だが、あまり広報されていない。区民の10分の1の人でも知ってもらえればよい。区地域防災計画を地域の人に知らしめていくこと、町内会だけではなく地域の各団体と連携して知らせていくことが大切である。町内会など地域に密着している人は防災意識が高いので、若い人や外国人などを対象に周知すればパニックにならないと思う。大手スーパーのように、防災用品を自然に目に入るところに展示するのが効果的である。

### 備え

災害備蓄倉庫は中学校区くらいの範囲で設置しているが、小学校区くらいの範囲で設置した方がよい。小学校区くらいの範囲にすると道路が寸断されてもたどり着ける。地震はもちろんだが、風水害に対しても備えておく必要がある。避難された人の小さな傷や簡単な応急手当などの処置は必要なので、医薬品も備蓄した方がよい。ボランティアの対応も考えておいた方がよい。自分たちだけでは無理なこともあるということも認識しておくべき。食べ物も大事だが、身の安全の確保が重要である。地震が起きても火を出さないようにすることを徹底する必要がある。あとで弁償することを前提に、自動販売機の飲料を災害時に利用できる協定を結べないか。

### 訓練

町内会ではある程度防災組織ができているので、マニュアルがあれば、あとは訓練次第である。訓練をしていないといざというときに実践できない。いろいろな訓練をすると自信がつき、身につくようになる。例えば、消火訓練をすると火災が起きたときに落ち着いて対応ができる。外国人の中には言葉がわからない人もいるので、実際に何か起きたときに戸惑うこともあると思う。普段からの訓練や教育が必要だ。小学校で運動会を開催するときに防災訓練を織り交ぜて実施したら、運動会を見に来た家族も参加できるのでよい。子どもは地域の小学校に通うのだから、小学校単位のイベントを考えたらどうか。

### 担い手

町内会の人々の年齢が高くなっていたり、昼間は地域に大人がいなかったりするため、体力がある中学生を活用するなど、幅広い見直しが必要である。主婦は昼間パートで働いていても地域にいる人が多いので、そういう人たちの力をもっと活用できればよい。最近、地域と関わりがない人が増えてきているが、その人たちも一緒に取り組まないと地域課題の解決につながらない。地域の課題を把握していても、誰がどのように取り組むのかが決まらないと解決に至らない。PTAの役員も成り手がいない状況であり、どうすれば協力が得られるのか模索しているところである。地域の活動の参加者はいつも同じ人ばかりというのが実情である。

### 自助・共助・公助

災害に対しては自分で自分の身を守るのが一番大切であり、余裕があればほかの人を助けるべき。

災害が起きると3日間くらいは応援が来ない前提で、自分の力で生き延びる方法を考えておかなければならない。

災害があったときのために、どこにどのような人がいるのか把握しておかなければならないが、個人情報の問題もある。

民生委員も町内会の全ての人を見られるわけではないので、隣近所が担うべきである。

自分で自分の身を守るのが最初で、その後にはほかの人を助けに行く形になると思う。自助、共助、公助の順番でなければならない。

地域の防災力の向上と同時に、町内会への加入促進をして地域の力を高めていかないと、形だけの制度になってしまうおそれがある。

### 体制

町内会は高齢化しており、大規模マンションなどに子どもを持つ若い世代が増えているので、町内会だけではなく、ほかの区民の視点からも考えないと地域の防災はできない。

地域に新しくマンションができて、既存の町内会などの活動には新しいマンションの住民はなかなか参加できない。無理に参加させようとするれば地域が混乱するおそれがある。団塊の世代に町内会へ参加してもらおうといっても現状では難しいと思う。何か受け皿になるような組織をつくらなければならない。

既存の団体を壊してしまうと不都合もある。しかし、新しい人は既存の組織にいろいろな抵抗がある。これからの地域防災を考えるならば、今までの枠組みではなく、新しい枠組みづくりをしないとできない。

区内で大規模マンションの建設が増加しており、その住民に地域との関わりを持ってもらう1つの手段として防災訓練を実施することも考えられる。学校と地域は連携していかないとうまくいかないから、学校と町内会は一体になって取り組むべき。協議会のようなのをつくれば、いろいろなことが知らしめていけるのではないかな。

新しい大規模マンションの住民と既存の町内会の人たち、それから、学校、幼稚園や保育園まで含めて、それらの人たちの連携が地域防災の一番の課題だと思う。

日頃からお祭りなどを通じて地域のコミュニケーションをとることが重要である。

災害時だけ協力し合うのは難しい。町内会の活動をもっとPRすべきである。

### 臨海部

臨海部の工場群で大規模災害が発生した場合、このような大きな工業地帯では、一般の人は対応の仕様がなない。

地域で生活している住民は企業の安全管理が不安なので、特に川崎区の場合はよくチェックしなければならない。

## 委員の意見

# シニアパワー部会 課題解決に向けた取り組み(案)

## 具体的な取り組み

### 人生いろいろ

地域は「どの人が定年する」などの情報を探している。ということは、地域をうまく運営していくためのパワーやノウハウ、人手が不足しているのである。しかし、そういう人は定年しても本当はそういうこと関係なく、俗な言葉で言えばぶらぶらすることを目指していたりする。そういう人たちを対象に、地域で活動するようお願いしたり、仕事を紹介したりすることにより、シニア世代は講座などシニアのための情報を本当に欲しがっているのが聞いている。

シニア世代全部を包括するのは難しい。シニアでも現役で働いている人はたくさんいる。先ほど意見があったように、女性は既に地域でネットワークをつくっていて暇で困る人はあまりいない。

60歳で定年したから急にすることがないという人は意外と少ないと思う。企業を定年になった人も8、9割は週に3日ぐらい仕事をしている。

65歳から上の世代は規則正しい質素な生活をしてきた人なので、元気でまちの委員にいろいろ活動している。しかし、50〜62歳ぐらいの人は自分の健康、年金のことなどがあるので、まちのために何かをするというよりは優先順位が高くない。先ほど委員の意見でもあったが、65歳ぐらいがシニアで、50〜62歳ぐらいの人はやるのがほかにもあると思う。

シニア世代にしてみれば、あまり行きたくないチームからスカウトされているようなものである。行政の立場からすれば、シニア世代にパワーが余っていきそうだから活用しようという考えがあるのだろうが、シニア世代が本当にそれ求めているかどうかはわからない。委員の意見でもあったが、地域活動に参加したいがどうすればよいかわからない。二の足を踏んでいたりする人などに絞って、有効に地域で活用しようというところだろう。

### アイデア勝負

男性で今は地域参加していないが、何か参加したいというニーズがある人に対し、地域での取り組みを紹介したり、どうい分野の活動がいかがを指導したり、どこの団体がこういう人を求めているという情報を提供したり、あるいはリーダーになりたい人がいたらリーダー研修の受講を勧めたりする。そういって効率のな場を用意して、川崎区の中で10人でも100人でも参加してくれば、スタートとしては大成功だと思っている。中学校区の地域教育会議では比較的町内会に開催していない若手になって活動を始めたい。ところが、放っておいたため自然消滅的に活動が縮小してきている。何か再活性化するような対策を講じるのも一つの方法である。

民生委員、保護司などの成り手がいないが、民生委員、保護司だけで成り手を探しているからである。公募のように地域で呼びかければたくさん出てくる。団塊の世代はパソコンで生きてきたような人たちはかなりなので、ホームページなどで広報した方が、紙媒体より伝達力がある。

町内会、文化団体、体育指導員など多くの団体で、新しい人が入ってこないために高齢化している。そういうところには新しい人は入りづらい。新しい人たちが自分たちで会をつくれれば集まる。以前にあった成人学校のような市民館の行事などで新しいアイデアを出していかないと、人は集まらない。

方向性としてはシニア世代に押し付けるような方法ではなく、どうすれば関心を持ってもらえるかを考えていくのだからと思う。新しいマンションが建設されている。単身世帯が多いなど区の特徴をとらえ、その人たちが地域にどうかかわってくれるのか。行政にはシニア世代を地域に呼び込むような取り組みを実施して欲しい。

川崎区区民会議では独自の提案、助言、忠告などで、何かこちらで仕掛けをすることができればよいと思う。例えば、自然発生的にシニア世代のパワーが集まり、何かをするように演出をしたり、あるいは発生したものを活性化させるために仕掛けたらいいと思う。川崎区は元気ですごいということが表現できるとよい。

高齢者が自分が楽しいことしかしないと思う。これまで苦しいことを多くしてきたので、居心地がよかったり、人と出会いがあったり、仲間づくりも含めてワイワイ、ガヤガヤできるようないい環境が増えるといい。

純然たる遊びではだめである。登校拒否の子を集めた学校をどこかの学校の空き教室を使って、団塊の世代の人たちに力になってもらい設置したらどうか。市でも色々なシニア施策をやっているが市民に浸透していない。面白そうなものや楽しそうなものなど多彩なメニューが大事である。

楽器、絵画、パソコン、ダンス、カラオケなどの趣味に入ると入りやすいので、シニアは健康にも関心が高いので、ラジオ体操や東原島マラソン大会も有効である。例えば消防団はやりがいがあるので加わりやすい。継続するには、感謝されたり、ちょっとしたお小遣いになったり、一杯やれたりすることも大切である。

### 受け皿づくりが必要

男性は仕事一筋で来た人ほど定年で自分の存在感を失う人が結構いる。そういう人もいろいろなノウハウを持っているので、それを地域で生かせないだろうか。人としてのいるものを身につけており、大きな財産だと思ってる。そういう人を生かせる地域、そういう人が生き生きしているまちづくりができればよい。それには受け皿がもう少し必要なので、町内会で元気なシニア世代の受け皿をつくるようなことができないか。

機会があればボランティア活動や地域福祉活動に参加してみたいという人たちに、こういう受け皿ができたから参加して欲しいという呼びかけをすることが審議の中心になるのではないだろうか。そういう人が来るか、あるいは別だが、そういう機会を設けて実施してきてはどうか。

これから地域で活動を始めたいという人が集まって、その人たちの活動希望を聞き、それならばあなたの特技を生かして活動する場所がこういうところにあるので、どこかに登録したらどうかというようにすることをしてほしい。

高齢者の特徴は人の役に立ちたいという地域貢献意欲がとても高いことだが、その場が探せない、見つかからないのである。今まで家族、会社などのために一生懸命働いてきたが、ボランティア活動というのは意外としてこなかった。やはりそういう受け皿づくりが必要だ。

川崎区に住んでいる人たちのふるさと意識や縦と横つながりをどのように広げていくかを考える必要がある。新しく住民になった人がどのように地域にかかわるかということでは、子どもを通じてだったり、清掃活動に参加したりしているいるあると思うが、具体的にはどうすればよいかとなると難しい。

町内会で何かの役割を引き受けると自立していき、すぐに別の大きな役割も依頼されるので、なかなか男性で地域にいていく人がいない。しかし、子供の野球の応援や公園掃除など大勢で実施するものには出ていく。意気投合した仲間や目的を持ったサークルの方が動きやすい。

シニアに対して地域に参加するというライフスタイルもあると提案したとしても、町内会の仕事をしたいと言っていると、抵抗を感じるシニアが多いと思う。だから、新しいタイプのコミュニティを考える必要がある。

町内会・自治会だけではなく、もっといろいろな団体や個人が連携して地域コミュニティを充実する方向にきているのではないかと。町内会の中には高齢化して大変で、お祭りの支度なんてとてもできないところもある。若い人たちに参加して欲しいという気持ちがありながら、それが表面に出てきていないのが現実である。行政としては地域の中核である町内会・自治会を活性化させることもコミュニティの新しい形成の一つだと思う。

### シニアパワ -

シニア世代は世の中を動かしてきた熱い世代だと思う。戦前生まれの人は価値観も大分違うし、定年といっても、むしろ今までの高齢者のイメージを相当変える人たちではないかという期待感を持っている。町内会や地域教育会議など既存組織が必ずしも活性化していないという意見があったが、そういう人が新たに加わることで何か変え得るのではないかと。

高齢者には若い世代に継承すべきものがたくさんある。ものづくりだけでなく、いろいろな遊びも含めて、核家族化で途絶えてしまったことを地域の人に教えるということもある。ぜひそういうシニア世代の持っている力を地域で発揮して欲しい。

昔、青年の主張というテレビ番組があったが、シニアの主張があってもいいと思う。そういうイベントを実施できるが別として、人口の20%を超える一大勢力である高齢者が、生き生きライフを謳歌しているまちであって欲しいと思う。そうすれば、恐らく町内会も変わるだろうし、いろいろなところがだんだん変わっていくと思う。

元気なシニアがたくさんいて楽しくやっていたら、参加したいと思う。楽しくなければだめである。

多彩なメニューで地域と触れ合うきっかけをつくる

それぞれのペースで無理なく参加してもらう

- (区民)
- ・お祭り、防犯パトロール、ゴルフ大会などへ勧誘する
- (協働)
- ・ラジオ体操やマラソン大会などシニアが参加しやすいイベントを開催する
- (行政)
- ・地域デビューを支援する施策を行う

参加する人も受け入れ側も広いところで柔軟に

- (シニア)
- ・郷に入るとは郷に従え
- ・まずは地域を知る(地域)
- ・長い目で受け入れる(活動)
- ・郷土史講座など地域を知る機会を提供する

シニアの力が集まれば地域の課題も解決

- (区民)
- ・地域において能力活用場を提供する
- (行政)
- ・市民活動を支援する

地域  
コ  
ミ  
ュ  
ニ  
テ  
ィ  
の  
充  
実

## 人生いろいろ

地域は「どこの人が定年する」などの情報を探している。ということは、地域をうまく運営していくためのパワーやノウハウ、人手が不足しているのである。しかし、そういう人は定年しても本当はそういうことと関係なく、俗な言葉で言えばぶらぶらすることを目指していたりする。そういう人たちを対象に、地域で活動するようお願いしたり、仕事を紹介したりすることがよいのかよくわからない。シニア世代は講座などシニアのための情報を本当に欲しがっているのか聞いてみたい。シニア世代全部を包括するのは難しい。シニアでも現役で働いている人はたくさんいる。先ほど意見があったように、女性は既に地域でネットワークをつくっていて暇で困る人はあまりいない。

60歳で定年したから急にすることがないという人は意外と少ないと思う。企業を定年になった人も8、9割は週に3日くらい仕事をしている。

65歳から上の世代は規則正しい質素な生活をしてきた人なので、元気でまちのためにいろいろ活動している。しかし、50～62歳くらいの方は自分の健康、年金のことなどがあるので、まちのために何かするという事は優先順位が高くない。先ほど委員の意見でもあったが、65歳くらいからがシニアで、50～62歳くらいの方はやることがほかにもあると思う。

シニア世代にしてみれば、あまり行きたくないチームからスカウトされているようなものである。行政の立場からすれば、シニア世代にパワーが余っていきそうだから活用しようという考えがあるのだろうが、シニア世代が本当にそれ求めているかどうかはわからない。委員の意見でもあったが、地域活動に参加したいがどうすればよいかわからなかったり、二の足を踏んでいたりする人などに絞って、有効に地域で活用しようということだろう。

## アイデア勝負

男性で今は地域参加していないが、何か参加したいというニーズがある人に対し、地域での取り組みを紹介したり、どういふ分野の活動がよいかを指導したり、どこの団体がこういう人を求めているという情報を提供したり、あるいはリーダーになりたい人がいたらリーダー研修の受講を勧めたりする。そのように効率的な場を用意して、川崎区の中で10人でも100人でも参加してくれれば、スタートとしては大成功だと思っている。

中学校区の地域教育会議では比較的町内会に関係していない若手を中心になって活動を始めている。ところが、放っておいたため自然消滅的に活動が縮小してきている。何か再活性化するような対策を講じるのも一つの方法である。

民生委員、保護司などの成り手がいないが、民生委員、保護司だけで成り手を探しているからである。公募のように地域で呼びかければたくさん出てくる。団塊の世代はパソコンで生きてきたような人たちばかりなので、ホームページなどで広報した方が、紙媒体より伝達力がある。

町内会、文化団体、体育指導員など多くの団体で、新しい人が入ってこないために高齢化している。そういうところには新しい人は入りづらい。新しい人たちが自分たちで会をつくれれば集まる。以前にあった成人学校のような市民館の行事などで新しいアイデアを出していかないと、人は集まらない。

方向性としてはシニア世代に押し付けるような方法ではなく、どうすれば関心を持ってもらえるかを考えていくのだと思う。新しいマンションが建設されている、単身世帯が多いなど区の特徴をとらえ、その人たちが地域にどうかかわってくれるのか。行政にはシニア世代を地域に呼び込むような取り組みを実施して欲しい。

川崎区区民会議では独自の提案、助言、忠告などで、何かこちらで仕掛けをつくることができればよいと思う。例えば、自然発生的にシニア世代のパワーが集まり、何かをするように演出をしたり、あるいは発生したものを活性化させるために仕掛けたりするといったことである。

当たり前提案ではない特色あることができるとよい。川崎区のシニア世代は元気ですごいということが表現できるとよい。

高齢者は自分が楽しいことしかしないと思う。これまで苦しいことを多くしてきたので、居心地がよかったり、人との出会いがあったり、仲間づくりも含めてワイワイ、ガヤガヤできるようないい環境が増えるとよい。

純然たる遊びではだめである。登校拒否の子どもを集めた学校をどこかの学校の空き教室を使って、団塊の世代の人たちに力になってもらい設置したらどうか。市でも色々なシニア施策をやっているが市民に浸透していない。面白そうなものや楽しそうなものなど多彩なメニューが大事である。

楽器、絵画、パソコン、ダンス、カラオケなどの趣味で入ると入りやすいのではないかと。シニアは健康にも関心が高いので、ラジオ体操や東扇島マラソン大会も有効である。

例えば消防団はやりがいがあるので加わりやすい。継続するには、感謝されたり、ちょっとしたお小遣いになったり、一杯やれたりすることも大切である。

## 受け皿づくりが必要

男性は仕事一筋で来た人ほど定年で自分の存在感を失う人が結構いる。そういう人もいろいろなノウハウを持っているので、それを地域で生かせないだろうか。人としていろいろなものを身につけており、大きな財産だと思うので、そういう人を生かせる地域、そういう人が生き生きしているまちづくりができればよい。それには受け皿がもう少し必要なので、町内会で元気なシニア世代の受け皿をつくるようなことができないか。

機会があればボランティア活動や地域福祉活動に参加してみたいという人たちに対し、こういう受け皿ができたから参加して欲しいという呼びかけをすることが審議の中心になるのではないだろうか。そういう人が来るか、来ないかは別だが、そういう機会を設けて実施してみてもどうか。

これから地域で活動を始めたいという人が集まって、その人たちの活動希望を聞き、それならばあなたの特技を生かして活動する場所がこういうところにあるので、どこどこに登録したらどうかというようなことをしてもいい。

高齢者の特徴は人の役に立ちたいという地域貢献意欲がとても高いことだが、その場が探せない、見つからないのである。今まで家族、会社などのために一生懸命働いてきたが、ボランティア活動というのは意外としてこなかった。やはりそういう受け皿づくりが必要だ。

川崎区に住んでいる人たちのふるさと意識や縦と横のつながりをどのように広げていくかを考える必要がある。新しく住民になった人がどのように地域にかかわるかということでは、子どもを通じてだったり、清掃活動に参加したりといういろいろあると思うが、具体的にはどうすればよいかとなると難しい。

町内会で何かの役職を引き受けると目立ってしまい、すぐに別の大きな役職も依頼されるので、なかなか男性で地域に出ていく人がいない。しかし、子供会の野球の応援や公園掃除など大勢で実施するものには出ていく。意気投合した仲間や目的を持ったサークルの方が動きやすい。

シニアに対して地域に参加するというライフスタイルもあると提案したとしても、町内会の仕事をして欲しいと言うと、抵抗を感じるシニアが多いと思う。だから、新しいタイプのコミュニティを考える必要がある。

町内会・自治会だけではなく、もっといろいろな団体や個人が連携して地域コミュニティを充実する方向にきているのではないかと。

町内会の中には高齢化していて大変で、お祭りの支度なんてとてもできないというところもある。若い人たちに参加して欲しいという気持ちがありながら、それが表面に出てきていないのが現実である。行政としては地域の中核である町内会・自治会を活性化させることもコミュニティの新しい形成の一つだと思う。

## シニアパワ -

シニア世代は世の中を動かしてきた熱い世代だと思う。戦前生まれの人とは価値観も大分違うし、定年といっても、むしろ今までの高齢者のイメージを相当変える人たちではないかという期待感を持っている。町内会や地域教育会議など既存組織が必ずしも活性化していないという意見があったが、そういう人が新たに加わることで何か変え得るのではないかと。

高齢者には若い世代に継承すべきものがたくさんある。ものづくりだけでなく、いろいろな遊びも含めて、核家族化で途絶えてしまったことを地域の人に教えるということもある。ぜひそういうシニア世代の持っている力を地域で発揮して欲しい。

昔、青年の主張というテレビ番組があったが、シニアの主張があってもいいと思う。そういうイベントを実施できるかは別として、人口の20%を超える一大勢力である高齢者が、生き生きライフを謳歌しているまちであって欲しいと思う。そうすれば、恐らく町内会も変わるだろうし、いろいろなところがだんだん変わっていくと思う。

元気なシニアがたくさんいて楽しくやっていたら、参加したいと思う。楽しくなければだめである。

## 区民会議集会について（企画案）

- 1 開催趣旨 区民会議の趣旨や役割を区民に周知すると共に、課題解決に向けた取り組みについて、参加者を交えて意見交換を行う。
- 2 主 催 川崎区区民会議
- 3 開催時期 12月中下旬
- 4 場 所 大師支所または田島支所会議室（50名程度収容）
- 5 テ ー マ 地域コミュニティの充実
- 6 配付資料 区民会議制度資料、課題解決に向けた取り組み案など
- 7 次第
  - （1）開会
  - （2）委員長あいさつ
  - （3）区民会議制度及びこれまでの経過説明  
プロジェクター使用  
説明者：区民会議委員
  - （4）パネルディスカッション（来場者を含めた意見交換会）  
コーディネーター 未定  
パネリスト 区民会議委員4～5名
  - （5）区長あいさつ
  - （6）閉会
- 8 広 報 市政だより区版12月号、区ホームページ、区民会議だより
- 9 そ の 他 会場からの意見のうち、実行可能なものについては実行計画に反映していく。

# 川崎区協働推進事業について

平成20年度主な協働推進事業及び区の課題解決のために実施する事業(案)

平成19年度川崎区協働推進事業計画

平成18年度川崎区協働推進事業実績

# 平成20年度主な協働推進事業、区の課題解決のために実施する事業(案)

平成19年10月16日現在

## 1 協働推進事業 新規 拡充

事業名	事業概要、平成20年度の主な取り組みなど
安全・安心まちづくり推進事業	「川崎区安全・安心まちづくり推進協議会」を中心として、区民、事業者、関係団体、行政の連携で、区内の実状に合わせた防犯・防火・交通安全の総合的対策を推進する。 平成20年度は青色回転灯装着車によるパトロールを強化する。
自転車マナーアップ事業	自転車放置禁止の啓発や交通ルールの遵守とマナーの実践を呼びかける「川崎区交通安全子ども自転車大会」の開催をする。 平成20年度は区民会議で提案があった「放置自転車禁止ステッカー」を追加作成する。
障害者の地域での暮らし応援事業	精神障害者が作業所、グループホームなど区内の社会資源の情報交換をするため、地域交流会を開催する。 平成20年度はこころの健康や区内の社会資源などを記載した冊子「(仮称)こころの健康」を新たに作成する。
ウォーキングガイドブックの改訂版発行事業	掲載情報を更新したウォーキングガイドブック改訂版を発行する。
総合的こども支援ホームページ事業	区内の子育ての最新情報を集め、かわさきこども支援総合ホームページにその情報を掲載する。 平成19年度は各月更新だったが、平成20年度は毎月更新する。
川崎区地域子育て環境整備事業	区内でいきいきと子育てしやすい地域づくりを推進するため、通訳及び翻訳バンク事業、入学準備支援事業などの事業を実施する。 平成20年度は発達障がい児支援事業、思春期問題対策事業、子どもの健全育成見守り事業、こども支援ボランティア育成事業を新たに実施する。
自然との調和推進事業	快適な区民生活を守るため、地域の環境対策に取り組む。区民の生活に潤いと安らぎをもたらすため、区内の緑の保全と育成を図る
かわさき産業ミュージアム推進事業	地域の産業遺産などを魅力ある地域資源とし、地域の「産業遺産」「産業文化財」をネットワーク化した「かわさき産業ミュージアム」を推進する。 平成20年度は産業ミュージアム講座受講生の自主的な研究をまとめた冊子を作成する。
区のイメージアップ事業	アメリカンフットボールとフラッグフットボールの推進により、区のイメージアップ及び地域活性化を図る。
市民活動支援事業	「地域拠点」として市民活動コーナーの施設整備を進め、併せて市民活動団体による自主運営に移行するように運営体制を整備する。 平成20年度は利用団体向けの研修を実施し、市民活動団体をソフト面で支援する。
区民にやさしいホームページづくり事業	区ホームページによる情報発信を充実させるため、やさしい日本語のページの区ホームページの改修、職員向けホームページの作成研修の実施などをする。

## 2 区の課題解決のために実施する事業

事業名	事業概要
臨海地区道路不法投棄対策事業	頻繁に不法投棄されている歩道橋の階段下にフェンスを設置する。7カ所の歩道橋に設置予定。
川崎駅東西自由通路補修事業	川崎駅東口東西自由通路に雨漏りなどの不具合が発生しているため、補修工事を実施する。
産業道路舗装道補修事業	主要地方道東京大師横浜(産業道路)で低騒音舗装の劣化、表層剥離が随所で見られるため、補修を実施する。

平成19年度川崎区協働推進事業計画

事業名	事業目的	事業内容	実施主体	新・継	当初予算額	実施日(期間)	所管課
安全・安心・快適なまちづくり							
1 (仮称)自転車マナーアップ事業	自転車の安全な乗り方の知識と技能向上を図ることで、子どもたちに地域の交通安全思想を効果的に推進する。 また、区内の自転車等放置禁止区域内を中心に、自転車放置禁止に関する啓発を実施し、区民の意識の高揚を図る。	・川崎区交通安全子ども自転車大会 ・放置自転車禁止の啓発	川崎区、交通安全子ども自転車大会実行委員会	継続	580,000	4～6月 啓発は通年	地域振興課
2 安全・安心まちづくり事業	区民、地域団体、事業者、行政機関等の連携・協働による防犯・防火・交通安全の普及を図り、暮らしやすい地域環境を進める。	・「川崎区安全・安心まちづくり推進協議会」運営 ・集会等の啓発事業の実施 ・地域防犯パトロール等	川崎区安全・安心まちづくり推進協議会	継続	860,000	4～3月	地域振興課
健やかに暮らすまちづくり							
3 障害者の地域での暮らし応援事業	障害者が住み慣れた川崎区でいつまでも暮らせるための支援を行う。	障害者を抱える人達を対象に情報交換や交流の集いを開催する。	川崎区	継続	50,000	10月～11月	保健福祉サービス課
4 すこやか子どもの歯支援事業	3歳児のむし歯罹患率が市内で最も高いことから、むし歯のない元気な子を増やすための支援を行う。	子育て支援センター等でむし歯予防に関する情報、望ましい生活習慣、フッ化物の正しい応用方法について普及啓発をする。	川崎区	継続	480,000	4～3月	地域保健福祉課
子育てを支援するまちづくり							
5 子育てママの健康メニューづくり応援事業	川崎区を担う次世代の健康・栄養生活を応援し、いきいきとした健康なまちづくりを支援する。	子育て中の母親を対象に、子供や家庭に望ましい生活習慣を身につけるための講習会を開催する。	川崎区	継続	1,033,000	5月～3月	地域保健福祉課
6 かわさき子育てフェスタ事業	区民、関係機関が一丸となり子育てを支援するために、イベントを企画開催し関係者間の連携強化を図り、支援の輪を広げる。	就学前の子どもと母親を対象にしたイベントの開催。サークル、支援機関等の広報を行う。	かわさき子育てフェスタ実行委員会	継続	351,000	11/1～11/30	保健福祉サービス課
7 かわさき子育てガイド・かわらばん事業	急増する育児不安、育児困難、孤立化などで悩む親たちに区内の育児情報をわかりやすく提供する。	外国語(英語、中国語、韓国・朝鮮、スペイン、タガログ)向けの子育てガイドさんぽみち(簡易版20P程度)発行する。季節ごとのタイムリーな情報を載せて年4回発行する。	川崎区	継続	2,963,000	5月～3月	保健福祉サービス課
8 川崎区地域子育て環境整備事業	区内でいきいきと子育てをしやすい地域づくりを推進する。						
(1) こども総合支援ネットワーク環境整備事業	区民と行政の協働による子ども支援を推進して区における総合的なネットワーク体制を構築する。	「川崎区こども総合支援ネットワーク会議」を開催し、子どもを取り巻く課題の解決策について協議する。	川崎区	継続	391,000	5～3月	こども総合支援担当
(2) 総合的こども支援情報ホームページ事業	子育て・子育てに関する総合的支援情報の充実を図り、身近な情報の発信をする。	こども支援総合ページの更新をする。	川崎区	継続	126,000	4～3月	こども総合支援担当・総務企画課・保健福祉サービス課
(3) 通訳・翻訳バンク事業	日本語を母語としない子どもや保護者に対する支援のため、外国語に堪能な地域人材の協力により通訳及び翻訳を行う。	区内の関係機関等の求めに対しボランティアの協力で通訳や翻訳を行うことにより各機関におけるサービスを補完する。	川崎区	継続	334,000	4～3月	こども総合支援担当
(4) 男性の育児参加促進事業	父親をはじめとした男性の育児参加を促進するため男性の保護者と子どもとの遊び教室を実施する。	子育て支援センターや保育園と共催し、土曜日に「ジョイフルサタデー」を開催する。	川崎区	継続	153,000	6～3月	こども総合支援担当
(5) (仮称)幼・保・小連携の入学準備事業	入学期を境に分断されている子どもの支援を子どもの成長に沿って継続性を図るため、保護者向けの啓発を行う。	就学を控えた年長児が円滑に学校生活に順応できるよう、正しい生活習慣付け啓発チラシ「もうすぐ1年生」を配布する。	川崎区	継続	176,000	6～3月	こども総合支援担当

(6)	新入学児・新入学生の安全啓発事業	子どもの被害防止、交通事故防止などのため、新入学児・生の保護者に向けて子どもに対する注意を喚起する。	区内の小学校・中学校の入学説明会若しくは入学式で安全確保啓発チラシ「新入学児の安全のために」を配布する。	川崎区	継続	137,000	10～3月	こども総合支援担当
(7)	川崎区こどもの安全確保対策事業	子どもが被害者となる事件の発生を抑止するため、地域に子どもの見守りを呼びかける	「地域見守り看板」を関係者の協力で地域に掲出する。「(仮)下校時放送テープ」を商店街などの協力で放送する。	川崎区	継続	1,563,000	4～3月	こども総合支援担当・総務企画課・地域振興課
(8)	川崎区こどもの情報コーナー整備事業	子ども支援関係情報や関係機関・関係団体の支援情報を集約して区民に提供する。	区役所内に「(仮)こども支援情報コーナー」を設置し、関係機関や団体の情報を保護者等へ一元的に提供する。	川崎区	新規	385,000	5～3月	こども総合支援担当
良好な生活環境を推進するまちづくり								
9	ねこの適正飼養推進事業	ねこの適正飼養の徹底推進は区としての緊急課題となっていることから、その適正飼養ルールについての普及啓発を図る。	ねこの所有情報任意届出制度を施行し、届出者には川崎区マーク入りのペンダントを配布するとともに、適正飼養ガイドブックや普及啓発看板の作成、ねこの飼い方教室を開催し、適正飼養及び飼い主責任強化を推進する。	川崎区	新規	1,401,000	5～3月	衛生課
観光資源を活かしたまちづくり								
10	観光と地域活性化事業	旧東海道川崎宿や川崎大師の史跡を活かし、回遊性に富む賑わいのあるまちづくりを推進する。	旧東海道を中心とした地域活性化の取組みを実施 ・丸型ポスト写真展 ・大師道すごろくの作成など	東海道川崎宿2023ほか	継続	5,393,000	4～3月	地域振興課
地域の可能性を活かしたまちづくり								
11	かわさき産業ミュージアム推進事業	ものづくり文化の継承発展及び産業文化財等の保存による川崎区独自の魅力づくりを推進し、教育や産業観光に活用する。	・産業文化財等の調査 ・産業ミュージアム講座 ・産業ミュージアムガイドブックの資料拡充。	川崎区、インタラクティブかわさきネットワーク	継続	2,974,000	4～3月	地域振興課
12	「音楽のまち・かわさき」づくり事業	「川崎区を音楽でいっぱいのにまに」をキャッチフレーズに音楽のまちづくりを推進する。	・いつでも誰でもコンサート	川崎区、教育文化会館	継続	3,500,000	4～3月	地域振興課
13	企業市民交流事業	企業の地域社会への貢献活動の気運を高めるとともに、生活市民と企業市民の交流の場をつくり、両者が協働でまちづくりを進める。	・活動成果を還元するために教育機関と連携し、教員・生徒へのバスツアーなどのイベントの実施 ・フォーラムの開催 ・情報誌の発行	川崎区、企業市民交流事業推進委員会、インタラクティブかわさきネットワーク	継続	6,578,000	4～3月	地域振興課
協働のまちづくり								
14	まちづくり推進事業	地域の課題解決に向けて活動している区内のまちづくりクラブを支援する。	地域の課題解決に向けた多彩な活動とフィールドワーク等を継続し、クラブ間の情報交換や連帯を図るための代表者会議、定例会を開催する。	各まちづくりクラブ	継続	5,534,000	4～3月	地域振興課
15	市民活動支援事業	区内で活動する非営利的社会貢献活動を行う市民団体を支援することによりまちづくりの推進を図る。	教育文化会館にある「川崎区市民活動支援コーナー」の市民団体による自主運営体制を定着させ、その運営を支援する。	川崎区市民活動コーナー利用者会議	継続	3,827,000	4～3月	地域振興課
16	パワフルかわさき区民綱引き大会	区民の友情と連帯、区民の地域への愛着と一体感を深め、元気な川崎区を内外にアピールする。	かわさき市民祭り期間中に「パワフルかわさき区民綱引き大会」を実施する。	川崎区、パワフルかわさき区民綱引き大会実行委員会	継続	2,569,000	7月～11月	地域振興課
快適な区役所づくり								
17	区民サービス向上事業	区民にわかりやすく親切で明るい窓口へ、区役所窓口の改善を図る。	窓口サービス改善検討委員会や各課で窓口サービスに向けた取り組みを実施する。	川崎区	継続	1,760,000	4～3月	総務企画課
18	川崎区役所庁舎内飾花事業	区役所来庁者に潤いと安らぎを提供する。	区役所1階ホールに生け花を飾る。	川崎区文化協会	継続	189,000	4～3月	総務企画課
19	川崎区マップ作成事業	区民への生活情報の提供、川崎区への転入者・来訪者に対する地域情報の提供を行う。	区内の地図、バス路線図、防災、医療、区役所業務等の情報を掲載した「かわさき区区民生活マップ」を作成・配布する。	川崎区	継続	908,000	7～10月	総務企画課

20	ウェルカム川崎区事業	転入者へ区民となったことを歓迎すると共に区内の魅力を広報し、区に愛着をもってもらう。	転入手続きに来庁した方に、ウェルカムセットにしたエコバッグを無償配布する。	川崎区	継続	1,479,000	4～3月	総務企画課
21	インターネット映像配信事業	より多くの区民に、より多様な形でわかりやすく広報する。	映像配信により効果的に広報できる事業をインターネットで配信する。	川崎区	新規	520,000	4～3月	総務企画課
22	区民にやさしいホームページづくり事業	区ホームページを区民にわかりやすくやさしいホームページにする。	区ホームページのアクセシビリティ診断や職員向け研修を実施する。	川崎区	継続	817,000	4～3月	総務企画課
23	外国人向けホームページ作成事業	外国人向けの広報を充実させる。	区ホームページで外国人向けのページを作成する。	川崎区	新規	506,000	4～3月	総務企画課
24	市政だより川崎区版特別号発行事業	地域課題の解決に向けた情報や保健福祉情報などをきめ細かく区民へ広報する。	市政だより川崎区版特別号を発行する。	川崎区	新規	3,211,000	4～3月	総務企画課
その他								
25	緊急対応事業	区民要望や地域課題に的確に対応する。	緊急性、重要性が高い課題の解決に向けた事業を実施する。	川崎区	継続	4,252,000	4～3月	総務企画課
合 計						55,000,000		

平成18年度川崎区協働推進事業実績

	事業名	事業目的、内容	事業の成果	決算額	今後の方向性	所管課
安全・安心・快適なまちづくり						
1	交通安全子ども自転車大会	小学校3～6年生を対象に自転車の安全な乗り方に関する知識と技能の向上を図るとともに、子どもたちを通じて地域に交通安全意識を効果的に普及し、安全なまちづくりを進めるため、交通安全子ども自転車大会を実施する。	児童、保護者などを合わせて107人が参加し、参加者に自転車の安全な乗り方を指導するとともに交通ルールへの遵守の呼びかけをした。	264,547円	現状どおり継続	地域振興課
2	安全・安心まちづくり、自転車等対策事業	地域住民・事業者・関係団体・警察・行政が連携して「川崎区安全・安心まちづくり推進協議会」を中心とした防犯・防火・交通安全の総合的な対策を推進する。 川崎駅東口周辺及び区内主要駅の放置自転車対策として、駐輪場以外での自転車放置禁止やマナー向上を目的とした啓発活動などを実施する。	区民への意識啓発については、年間を通して、安全・安心フォーラム、警察署・消防署による講話会などの実施により、問題意識の浸透が図れた。 自転車対策員による放置自転車禁止区域内の自主撤去や外部からの依頼による撤去活動を継続して実施した。	602,673円	現状どおり継続	地域振興課
健やかに暮らすまちづくり						
3	高齢者・障害者の地域での暮らし応援事業	精神障害者が集い、交流を深めるとともに区内の社会資源について情報交換を行うことを目的に地域交流会を開催する。	地域交流会参加者97名はこれまでで最大の参加者数であった。アンケートでは、2/3の人が「楽しめた」「また参加したい」と回答しており、好評であった。	47,024円	見直し、改善の上継続(側面支援的役割に移行)	保健福祉サービス課
		徘徊高齢者SOSネットワーク代表者会議の活動として、認知症に対する理解、徘徊高齢者ネットワーク事業や高齢者の権利を擁護する制度の周知などを行う。今年度は認知症と成年後見制度の講演会を開催した。	実施内容、対象地域を絞って実施し、効率的に区民を啓発することができた。	184,300円	終了する(取り組みは事業予算の中で継続)	高齢者支援課
4	健康づくり・介護予防のための運動普及啓発事業	健康づくり、介護予防のための「ウォーキングガイドブック」を作成し、それを活用して健康と運動の大切さを啓発する。運動を生活に取り入れられるよう「健康基礎講座」「ウォーキング実践講座」など具体的な支援を行なう。	ウォーキングガイドブックの製本、ウォーキング定着のための講座等を、関係団体と協働で実施し、多くの区民の参加を得た。	548,951円	終了する(取り組みは事業予算の中で継続)	地域保健福祉課
5	すこやか子どもの歯支援事業	川崎区は3歳児歯科健診のう蝕罹患率が全市の中で最も高い。川崎区歯科医師会と協働で、う蝕のない元気な子を増やすために歯科保健に関する情報、望ましい生活習慣のありかた、家庭でできるフッ化物の正しい応用方法についての普及啓発を行なう。	地域子育て支援センター(講演、口腔衛生状態スクリーニングテスト、フッ化物の体験、相談)と子育てフェスタ(口腔衛生状態スクリーニングテスト、位相差顕微鏡による口腔内の細菌観察、フッ化物の体験、相談)で実施した。保健福祉センター、地域子育て支援センター、川崎区歯科医師会が協働で行なったことにより、効率的・効果的に普及啓発が図れた。	366,286円	見直し、改善の上継続(体験学習の増加を)	地域保健福祉課
子育てを支援するまちづくり						
6	ヤングママの健康メニューづくり応援事業	10～30歳代の子育て中の母親を対象に子どもや家族の望ましい食生活習慣について、地域の子育て関係機関や関係団体と連携をとりながら講習会を開催し、これからの川崎区を担う次世代の健康・栄養生活を応援し、いきいきとした健康なまちづくりを支援する。	今年度は新たに4つの取り組みを始めた。地域子育て支援センター、幼稚園と連携した出前講習会を実施 民生委員児童委員協議会と連携したこども文化センターにおける出前講習会を実施 区役所の講習会で、母親の食事から離乳食を作る実習を実施 これまでは離乳食を持参していたが、講習会で調理した離乳食を子どもに提供する親子会食を実施。 親子会食は母親の育児不安を軽減し、食事・朝食の大切さや、野菜料理の工夫を身につけ、食事づくりの楽しさを体感し実践へと導く、友達づくりの場にもなった。	568,000円	見直し、改善の上継続(家庭で手軽に作れる献立集作成を中心に実施)	地域保健福祉課

	事業名	事業目的、内容	事業の成果	決算額	今後の方向性	所管課
7	かわさき子育てフェスタ事業	次の内容でかわさき子育てフェスタを実施する。就学前の子どもと保護者を対象に、気軽に参加でき、楽しめて体験できるイベントとする。子育てサークルや地域での自主活動及び子育て支援機関を広くPRし、多くの親子が有効に活用できるようにする。参加者がより多くの人と交流が図れる場とする。子育てグループ・団体・子育て支援関係機関が協働の取り組みを行うことによって、連携強化を図る。子どもからお年寄り、障害のある方・ない方もイベントを通じて、世代を超えて交流を図る。	フェスタ月間を通して55のイベントで延べ2,761人の参加があり、フェスタの目的はほぼ達成できた。また、健康づくりのつどいと同日開催で、世代を超えた地域ぐるみの子育て支援を実現するため、企画内容を充実することができた。	273,371円	見直し、改善の上継続(子育てグループの参加の増加を図る)	保健福祉サービス課
	こども総合支援ネットワーク環境整備事業	区内の子どもに関する様々な課題の解決に向けて、関係機関や関係施設及び子ども支援活動を行っている活動団体が一堂に会し、協働で解決を図っていくための支援策について協議・検討を行う。	全体会議を3回開催し、課題の共有化を図った。また、「子どもの安全確保」、「発達障がい児支援」の2課題について部会を設置し、協働による支援を行った。	145,536円	現状どおり継続	こども総合支援担当
8	総合的こども支援情報ホームページ作成事業	子育て中の区民に対し、さまざまな子育て関連情報を一つのホームページ(コンテンツ)で総合的に提供する。	区ホームページに新しく「こども支援総合ページ」を開設した。さまざまな子育て関連情報を集約し、子育て中の区民にワンストップで情報を提供している。主な内容は子育てに関連した施設、イベント、手当て・助成、支援制度、相談などである。必要な情報にアクセスしやすくするため、トップページに分野別と年代別の2つのメニューを設けたり、子育て関係施設マップ、イベントカレンダーを掲載したりしている。	1,785,000円	現状どおり継続	こども総合支援担当・総務企画課
	かわさき子育てガイド事業	子育てガイド「さんぼみち」の改訂版を発行し、急増する育児不安、育児困難、孤立化などで悩む親たちに、区内の情報をわかりやすく提供する。 主な情報は医療機関、予防接種、育児相談など子育てに密着した情報のほか、おすすめ公園や子どもと一緒にいけるお店など日々の子育ての中でほっとできる情報をわかりやすく提供する。	利用対象者の要望及び区の特性に合わせ、小学生入学時の情報掲載、全ページカラーや目次の工夫などの改善や外国籍の人のために、表紙及び目次に翻訳言語を表記し該当ページの検索がしやすいように工夫をした。	4,664,283円	見直し、改善の上継続(ホームページ化の検討など)	保健福祉サービス課
良好な生活環境を推進するまちづくり						
9	クリーン川崎区事業(当初計画:花壇設置分)	道路敷へのごみの不法投棄や自転車の放置により、交通に支障を及ぼし住環境の悪化を招いているので、その解決を図る。	花壇設置以降不法投棄、放置自転車がなくなり良好な環境が保たれている。	555,194円	終了する(予定通りの成果が得られたため)	建設センター管理課
	クリーン川崎区事業(追加:フェンス設置分)	歩道橋下の空いているスペースへの不法投棄が多いため、フェンスで囲み、不法投棄を防止する。 労働会館前交差点と市立川崎高校前交差点の歩道橋下にフェンスを設置する。	フェンスを設置したことにより、当該箇所への不法投棄がなくなった。	407,820円	終了する(予定通りの成果が得られたため)	建設センター管理課

	事業名	事業目的、内容	事業の成果	決算額	今後の方向性	所管課
9	クリーン川崎市事業(追加:ステッカー作成)	不法投棄対策は、不法投棄物抑制対策(不法投棄防止看板等)や撤去作業だけでは限界があるため、地域住民や地元企業なども巻き込んで、意識を高めて取り組めるように啓発用シールを作成する。	ステッカーを2種類の素材で2,000枚ずつ、合計4,000枚作成した。臨海部(大川町ほか)の企業等に配布した。今後、東扇島などの企業にも配布を予定している。	934,500円	終了する(予定通りの成果が得られたため)	建設センター管理課
観光資源を活かしたまちづくり						
10	観光と地域活性化事業	まちづくりクラブをはじめ、町内会、商店街、企業、かわさき歴史ガイド協会などとの協働により、歴史や文化など川崎市ならではの観光資源を活かした回遊性に富む賑わいのあるまちづくりを推進する。	坂本九さん没後20年となった8月12日に川崎ルフロンで追悼コンサートを企画。シャッター浮世絵の実現、一行寺の閻魔大王像ご開帳にあわせて閻魔寺寄席を開催、向小学校で鎌倉能舞台による能狂言教室の開催など、全国に川崎宿をアピールすることができた。	5,393,000円	現状どおり継続	地域振興課
地域の可能性を活かしたまちづくり						
11	かわさき産業ミュージアム推進事業	川崎区におけるものづくり文化の継承発展と新しい魅力づくりを目指し、区域全体を展示場に見立てて、区内に散在する近代化遺産・産業文化財などをネットワーク化した分散型ミュージアム「かわさき産業ミュージアム」実現に向けた事業を行う。	地域や産業遺産の歴史を学び、インタープリター(文化遺産などを解説する人)の養成につなげる「かわさき産業ミュージアム講座」(全5回、公募制)を実施し、バスツアーによる見学機会の創出(3回)を行った。また、近代化遺産・産業文化財の紹介や「かわさき産業ミュージアム構想」の考え方などをまとめた「かわさき産業ミュージアムガイドブック」の資料数を増やすなど、内容を拡充して改訂版を作成した(10000部)。	2,832,789円	現状どおり継続	地域振興課
12	「音楽のまち・かわさき」づくり事業	「川崎区を音楽でいっぱいのに街に…」をコンセプトに、区内で「いつでも誰でも」ミニコンサートが実施できるように、いつでも誰でもコンサートを企画、実施する。	ミニコンサートを31ヶ月で200回(毎月約6回ペース)以上開催した。TVK情報番組「ハマランチョ」、FMかわさき、ぱど、アーバン、Kawasaki Music Magazineなど幅広く紹介され、音楽のまち・かわさきのイメージアップに貢献している。	4,095,000円	現状どおり継続	地域振興課
13	企業市民交流支援事業	川崎区は区域の半分強が企業用地として利用され、市内随一の就業者数を擁している。そこで、区内に住む生活市民と区内で操業する企業市民との価値観の共有化を目指し、企業の地域社会への貢献活動の気運を高めるとともに、生活市民と企業市民の交流の場づくりと両者が協働したまちづくりを進めている。また、地域活性化のための活動や提言も行っている。	生活市民と企業市民の交流から地域活性化策の提案など協働したまちづくり活動へ発展している。ただし、両者の特色を生かした協力の方向性や具体的な企業の社会貢献活動については、未だばらつきがある。	5,067,030円	現状どおり継続	地域振興課
協働のまちづくり						
14	地域の縁側づくり推進事業	既存のまちの縁側の運営支援に加え、新たなまちの縁側の立ち上げと継続的な運営のための支援を行った。「ご近所パワーで助け合い実践講座」を開催し、地域福祉活動等を行っている団体・個人に対し、住民相互の助け合いの現状、課題、解決に向けた検討を行い、よりよい活動をするための支援を行った。	「まちの縁側」は、各地区で継続して実施することができた。講座の開催により、地域の福祉活動の支援を実施することができた。	682,500円	終了する(取り組みは事業予算の中で継続)	地域保健福祉課

	事業名	事業目的、内容	事業の成果	決算額	今後の方向性	所管課
15	文化と緑の薫る支所づくり	<p>大師支所のホールに地域住民、地域団体、地域のサークル、学校などから寄せられた作品を展示することにより、訪れる区民に楽しんでもらうことと、地域住民、地域団体の創作活動を発表する場を提供し、地域の文化交流を促進していくことを目的としている。</p> <p>今年度は地域団体、活動サークル、学校などから寄せられた、ちぎり絵、俳句、押し花、ガラス作品、書道作品、絵画を展示した。</p>	<p>今年度は絵画、書道、ガラス等7団体の作品の展示を行った。</p> <p>支所内に作品を展示することにより、作品の出展者に励みとなり、また展示作品を鑑賞した区民から出展団体に対する問い合わせ等もあり、地域の文化交流促進に一定の役割を果たせた。</p>	0円	終了する(取り組みは経費を支出せずに継続)	大師支所区民センター
16	まちづくり推進事業	<p>区づくり白書の実現と地域の課題解決に向け活動を展開している「川崎区まちづくりクラブ」とその関連する市民団体の活動を支援する。</p>	<p>区民の意識が行政によるまちづくりへの依存から行政との協働によるまちづくりを推進する方向へと変化してきている。</p>	5,473,372円	見直し、改善の上継続(中間支援組織に参加できる団体の育成)	地域振興課
17	市民活動支援事業	<p>社会貢献活動を行う市民団体の作業スペース、団体相互の情報交換の場などとして「川崎区市民活動コーナー」を設置し、市民活動の活性化により区のまちづくりの推進を図ることを目的とする。</p>	<p>市民活動コーナーを拡充し、機能の向上を図ることができた。</p>	2,054,247円	見直し、改善の上継続(利用者団体の自主運営体制の構築を)	地域振興課
18	2006パワフルかわさき区民綱引き大会	<p>かわさき市民祭りにおける区民参加の行事として、区民同士の友情と連帯、区民の地域への愛着と一体感を深め、元気な川崎区民を内外に伝えるイベントとして開催する。</p>	<p>区民の連帯感の高揚が図れ、参加者同士の交流を深めることができた。</p>	2,542,208円	見直し、改善の上継続(委託内容の見直し)	地域振興課
快適な区役所づくり						
19	区民サービス向上事業	<p>区役所の各窓口を区民にわかりやすい明るい窓口改善するため、職員の創意工夫により区民サービス向上策を実施する。特に窓口サービス改善検討委員会(区民サービス部長を長とし、各課職員が組織横断型で参加)を設置し、窓口サービスの改善策を検討、実施する。</p>	<p>平成18年度は「記載台及び面接室の照明設備補修」「区民向け窓口案内一覧」「職員向け接遇マニュアル」「職員向け接遇研修」などを実施した。また、来庁者に潤いと安らぎを提供するため、区役所1階ホールに生け花を飾った。</p>	3,278,661円	現状どおり継続	総務企画課・区民課
20	川崎区マップ作成事業	<p>区民への生活情報の提供、川崎区への転入者・来訪者に対する地域生活情報の提供をするため、川崎区内の地図、バス路線図、防災、区役所業務などの情報を手間をかけずに見ることができるなど検索性を工夫したマップを作成している。希望者のほか、転入者向けウエルカム事業の一環としてウエルカムセットの一部として無料配布する</p>	<p>かわさき区民生活マップを8,000部作成した。区内の情報を簡単に調べることができ、転入者及び来訪者に対して効率的な情報発信の役割を果たしている。</p>	785,400円	現状どおり継続	総務企画課

	事業名	事業目的、内容	事業の成果	決算額	今後の方向性	所管課
21	ウェルカム川崎区事業	転入者に対し、基礎的生活情報、区の取り組み、区の魅力などのさまざまな情報を提供し、転入に対して歓迎の意を表するとともに、区への愛着を醸成するため、転入手続きに来庁した人にかわさき生活ガイド、区民生活マップなどを入れたウェルカムバッグ(ナイロン製のエコバッグ)を配布する。	ウェルカムバッグを8,500個作成した。現在、かわさき生活ガイド、区民生活マップ、くらしとごみカレンダー、サンキューコールかわさきのチラシ等を入れて配布している。	1,294,125円	見直し、改善の上継続(今後の転入者の状況による)	総務企画課
22	情報発信機能充実強化事業	区役所の広報・広聴機能を強化するため、区ホームページをリニューアルし、区民意見・提案を吸い上げるために川崎区区民ポストを設置した。	区ホームページのトップページに区の魅力を伝える複数の画像が表示できるようになったり、新たに携帯サイトを設置したりするなど、区ホームページを充実させることで、区の広報力が向上した。	969,274円	終了する(情報発信手段、内容などで個別に事業化)	総務企画課
23	緊急対応事業(区民会議運営事業)	地域の課題を把握するために区民アンケートを実施した。区民会議の審議結果を受けて、放置自転車及び路上喫煙禁止ステッカーや地域見守り看板を作成した。	ステッカーの貼り付けや看板の掲出は区民団体が実施しており、区民と行政の協働で地域の課題解決に向けた取り組みが実施できた。	1,740,900円	現状どおり継続	総務企画課
	緊急対応事業(川崎区子どもの安全確保対策事業)	子どもが被害となる事件が多発しており、子どもの安全・安心を推進するために地域における見守り看板を作成し、関係施設や地域の各団体の協力で地域に掲出することにより事件発生を抑止を図る。	地域見守り看板を800枚を作成し、関係施設、関係者等の協力で地域に掲出した。	976,080円	終了を見越して継続(予定通りの成果が得られる見通しが立ったため)	子ども総合支援担当・総務企画課・地域振興課
	緊急対応事業(川崎区通訳及び翻訳バンク事業)	日本語を母語としない親子に対する支援として、区内の関係機関・施設において子どもや保護者に対する通訳やパンフレット等の翻訳が必要になった場合に地域の外国語に堪能な人材の協力により通訳若しくは翻訳を担ってもらい、各機関等の子ども支援のサービスを補完し、孤立することの防止を目的とする。	本制度の運用開始後4ヶ月で通訳及び翻訳の利用回数が60件に達した実績から、関係機関等におけるニーズが高いと判断できる。	636,300円	現状どおり継続	子ども総合支援担当
	緊急対応事業(男性の育児参加促進事業)	父親や男性の育児参加を促進するため、地域子育て支援センター、市立保育園と共催で土曜日に地域子育て支援センターにおいて、男性向けの親子遊び教室を開催し、男性の日常的な育児参加を促す。	地域子育て支援センター「むかい」と「かわさき」で各1回、計2回実施し、幼児、保護者合計で295名(内男性保護者65名)の参加があり、好評であった。	9,200円	見直し、改善の上継続(拡充を検討)	子ども総合支援担当
	緊急対応事業(幼・保・小連携事業)	就学を境に所管局ごとに分断されている支援を、子どもの成長に沿って継続性を図り、小学校生活に円滑に順応できるよう、年長児の保護者に対し正しい生活習慣付けを啓発する。また、幼児と小学生による異年齢児の交流を図る。	通算して年間3回配布した。異年齢児交流事業は東大島小学校運動会会場で実施した。	198,156円	見直し、改善の上継続(異年齢児交流事業は終了)	子ども総合支援担当
緊急対応事業(新入学児・新入学生の安全確保啓発事業)	子どもが事件の被害者になることや交通事故の防止、非行防止のため、入学説明会や入学式で小学校の新入学児、中学校の新入学生の保護者に対し、子どもの安全確保に関する啓発チラシを配布する。	区内の小学校21校、中学校10校及び田島養護学校で配布した。	136,500円	現状どおり継続	子ども総合支援担当	

	事業名	事業目的、内容	事業の成果	決算額	今後の方向性	所管課
23	緊急対応事業(「保健福祉センターたより」の発行)	保健福祉センターの業務内容を区民に広報し、区民に有効に利用してもらうことを目的とする。 保健福祉センターの年間業務予定を中心に掲載し、個人の生活サイクルや必要に応じたサービスを利用してもらうため、健康・子育て・介護等の身近な情報を提供する。	町内会への回覧依頼や川崎区転入者、保健福祉センター窓口等での配布等により、保健福祉センターの業務内容を広く区民へ情報発信することができた。	265,003円	見直し、改善の上継続(市政だより川崎区版特別号発行事業で実施)	地域保健福祉課
	緊急対応事業(ストップ子どもの虐待!地域連携事業)	保健師を中心とした多職種や地域の子育て支援関係機関が連携し、児童虐待を防止するとともに、地域での虐待予防及び子育て支援活動の強化を図る。	関係者間で共通認識を持つため、定期的な会議、専門的助言のための研究会、こころの相談所との情報交換会を開催した。 事例データを保存し、安定的支援のための判断基準を作成した。 地域活動の連携強化を図るため、区内に5カ所ある子育てサロンへの支援、子育てグループ交流会、外国籍母子を対象にした講演会を実施した。	317,466円	終了する(取り組みは経費を支出せずに継続)	保健福祉サービス課